

作成日：西暦 2025 年 8 月 30 日

2001 年 1 月から 2024 年 12 月までに骨軟部腫瘍（間葉系腫瘍）＊と診断され、生検または摘出術を受けた産業医科大学病院の患者さんおよびそのご家族へのお知らせ（＊腫瘍名のリストは末尾に記載）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。本研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる患者さんおよびそのご家族お一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。本研究に関するお問い合わせ、また、ご自身・ご家族の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

骨軟部腫瘍（間葉系腫瘍）における分化・形態学的特徴に関わる因子の探索

2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ～ 2028 年 8 月 31 日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学病院病理診断科 助教 津田 陽二郎

5. 研究の目的と意義

[目的]

本研究では、骨軟部肉腫の分化に関わる現象について、遺伝子の変化やエピジェネティクスと呼ばれる遺伝子発現の制御機構を解析し、その詳細な分子機序を解明することを目的とします。

[意義]

悪性の間葉系腫瘍である骨軟部肉腫の組織分類は、腫瘍細胞が示す分化の方向性に基づいて行われていますが、腫瘍に認められる「分化」は診断のみならず、生物学的悪性度においても重要な要素となっており、分化の悪いものや、分化形質が失われてしまったもの（「脱分化」したもの）は予後不良とされています。この分化が失われていく現象に関しては未だ原因や機序が明らかになっていません。本研究により予後不良な肉腫へ

と至る機序を解明することができれば、それを抑制する治療に繋げることが期待できます。

## 6. 研究の方法

2001年1月から2024年12月までの期間に、産業医科大学病院で骨軟部腫瘍（間葉系腫瘍）と診断されて生検あるいは摘出術により採取され、同院病理部にホルマリン固定パラフィン包埋組織（パラフィンブロック）として保管されている試料（腫瘍組織）を用いて、診断マーカーの候補となる分子を免疫組織化学（免疫染色）や分子生物学的手法（RT-PCR、FISH）等により評価を行います。試料に関して、必要に応じて年齢、性別、症状、経過等の情報を電子カルテより収集します。

## 7. 個人情報の取り扱い

本研究に使用する試料（パラフィンブロック）は、研究責任者の厳重な管理の下、対象者を特定できないよう配慮の上で安全管理措置を施され、所定の管理センター（産業医科大学第1病理学教室）において厳重に管理されます。保管期間については、情報は論文等の発表後10年間、試料は論文等の発表後5年間とし、その後廃棄します。なお、本研究では患者氏名、生年月日、住所などの個人情報を必要としないため、研究者はそれらの情報を保持せず、研究の過程で作成された薄切組織標本及び染色済み組織標本は任意の識別番号を付与します。廃棄の際には、完全に匿名化していることを確認した上で、電子媒体の不可逆的フォーマットや、紙媒体のシュレッダー処分を行います。試料の利用拒否のご連絡を頂いた場合には、直ちに標本やデータを廃棄し、研究対象外とさせていただきます。

## 8. 問い合わせ先

産業医科大学医学部第1病理学 津田 陽二郎

〒807-7555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 TEL/FAX 093-691-7425/692-0189

## 9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。本研究は、国から交付された文部科学省科学研究費補助金と講座研究費により、本学の主任研究者のもとで公正に行われます。本研究の利害関係については、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。

### <骨軟部腫瘍（間葉系腫瘍）のリスト>

- |               |         |
|---------------|---------|
| ・ 脂肪腫         | ・ 骨軟骨腫  |
| ・ 脂肪芽腫        | ・ 類骨骨腫  |
| ・ 紡錘形細胞・多形脂肪腫 | ・ 骨芽細胞腫 |
| ・ 褐色脂肪腫       | ・ 骨肉腫   |

- ・ 異型脂肪腫様腫瘍・高分化型脂肪肉腫
- ・ 異型紡錘形・多形脂肪腫様腫瘍
- ・ 脱分化型脂肪肉腫
- ・ 粘液型脂肪肉腫
- ・ 多形型脂肪肉腫
- ・ 結節性筋膜炎
- ・ 骨化性筋炎・指趾線維骨性偽腫瘍
- ・ 弾性線維腫
- ・ 乳児線維性過誤腫
- ・ 腱鞘線維腫
- ・ 線維形成性線維芽細胞腫
- ・ (乳腺型)筋線維芽細胞腫
- ・ 節内柵状筋線維芽細胞腫
- ・ 石灰化腱膜線維腫
- ・ EWSR1-SMAD3 陽性線維芽細胞性腫瘍
- ・ 血管筋線維芽細胞腫
- ・ 富細胞性血管線維腫
- ・ 軟部血管線維腫
- ・ 項部線維腫
- ・ Gardner 型線維腫
- ・ デスモイド型線維腫症
- ・ 隆起性皮膚線維肉腫
- ・ 孤在性線維性腫瘍
- ・ 炎症性筋線維芽細胞性腫瘍
- ・ 低悪性筋線維芽細胞肉腫
- ・ 表在性 CD34 陽性線維芽細胞性腫瘍
- ・ 粘液炎症性線維芽細胞肉腫
- ・ 乳児型線維肉腫
- ・ 成人型線維肉腫
- ・ 粘液線維肉腫
- ・ 低異型線維粘液肉腫
- ・ 硬化型類上皮線維肉腫
- ・ 限局型腱鞘巨細胞腫
- ・ 良性線維性組織球腫
- ・ びまん型腱鞘巨細胞腫
- ・ 蔓状線維組織球性腫瘍
- ・ 軟部巨細胞腫
- ・ 平滑筋腫
- ・ 線維形成性線維腫
- ・ 骨線維肉腫
- ・ 非骨化性線維腫
- ・ 骨巨細胞腫
- ・ 巨細胞性修復肉芽腫
- ・ 良性脊索細胞性腫瘍
- ・ 脊索腫
- ・ 骨血管腫
- ・ 類上皮血管腫
- ・ 骨血管肉腫
- ・ 骨脂肪腫
- ・ 骨脂肪肉腫
- ・ 骨平滑筋肉腫
- ・ アダマンチノーマ
- ・ 動脈瘤性骨囊腫
- ・ 単純性骨囊腫
- ・ 線維性骨異形成
- ・ 骨線維性異形成
- ・ ランゲルハンス細胞性組織球腫
- ・ Erdheim-Chester 病
- ・ 軟骨間葉性過誤腫
- ・ Rosai-Dorfman 病
- ・ 骨未分化多形肉腫

- ・ EB ウイルス関連平滑筋腫瘍
- ・ 平滑筋肉腫
- ・ 炎症性平滑筋肉腫
- ・ 横紋筋腫
- ・ 横紋筋肉腫
- ・ グロームス腫瘍
- ・ 筋周皮腫
- ・ 血管筋腫
- ・ 血管腫
- ・ リンパ管腫
- ・ 網状血管内皮腫
- ・ カポシ様血管内皮腫
- ・ 乳頭状リンパ管内血管内皮腫
- ・ 複合型血管内皮腫
- ・ 偽筋原性血管内皮腫
- ・ カポシ肉腫
- ・ 類上皮血管内皮腫
- ・ 血管肉腫
- ・ 軟部軟骨腫
- ・ 骨外性骨肉腫
- ・ 胃腸管間質腫瘍
- ・ 神経鞘腫
- ・ 神経線維腫
- ・ 神経周膜腫
- ・ 顆粒細胞腫
- ・ 真皮神経粘液腫・神経莢腫
- ・ 柵状被包化神経腫
- ・ 異所性髄膜腫
- ・ 鼻異所性膠腫
- ・ 神経筋分離腫
- ・ 混合型神経鞘腫瘍
- ・ 悪性末梢性神経鞘腫瘍
- ・ 悪性顆粒細胞腫
- ・ 悪性外胚葉性間葉腫
- ・ 肢端性線維粘液腫
- ・ 筋肉内粘液腫
- ・ 傍関節粘液腫
- ・ 深在性血管粘液腫

- ・ 異所性過誤腫性胸腺腫
- ・ 多形性硝子化血管拡張性腫瘍・血鉄性線維脂肪性腫瘍
- ・ 異型線維黄色腫
- ・ 血管腫様線維組織球腫
- ・ 原発性肺粘液肉腫
- ・ 骨化性線維粘液性腫瘍
- ・ 筋上皮腫
- ・ リン酸塩尿性間葉腫
- ・ NTRK 遺伝子再構成を伴う紡錘形細胞腫瘍
- ・ 血管周囲類上皮細胞腫瘍
- ・ 滑膜肉腫
- ・ 類上皮肉腫
- ・ 胞巣状軟部肉腫
- ・ 軟部明細胞肉腫
- ・ 悪性胃腸管外胚葉性腫瘍（明細胞肉腫様胃腸管腫瘍）
- ・ 骨外性粘液型軟骨肉腫
- ・ 線維形成性小円形細胞性腫瘍
- ・ 腎外性ラブドイド腫瘍
- ・ Ewing 肉腫
- ・ CIC 遺伝子再構成を伴う肉腫
- ・ BCOR 遺伝子再構成を伴う肉腫
- ・ 血管内膜肉腫
- ・ 二重表現型鼻腔副鼻腔肉腫
- ・ 未分化・未分類肉腫